

## 刈り取り管理実験の成果



2007年秋  
刈り取り前のようす



2007年秋  
刈り取り直後のようす



2009年秋  
ススキが大きくなり、  
穂が目立つように。



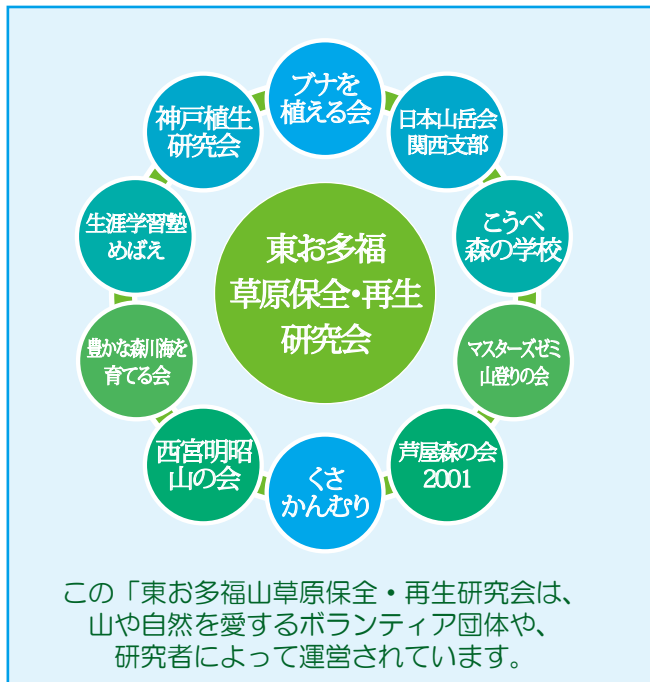
2010年秋  
ススキが優占するようす。



2011年秋  
ススキがさらに増える。



2014年秋  
ススキ草原らしい景観に！



### 【これまでの主な活動】

- 2007年秋 研究会主要メンバー集結  
刈り取り実験を開始(5試験区500㎡、2008年に1試験区追加)
  - 2010年 東お多福山草原保全・再生フォーラム(8月)、活動が「ひょうごの生物多様性保全プロジェクト」に認定される(11月)、六甲山環境保全・活用体験ツアー開催(12月)
  - 2011年 東お多福山草原保全・再生研究会を正式に発足。刈り取り面積を8000㎡に拡大(特別地域・神戸市域)
  - 2013年～ 東お多福山草原生物多様性ガイド養成講座を神戸県民センターと実施
  - 2014年 特別保護区(芦屋市域)での刈り取り管理(1000㎡)を開始
  - 2015年 東お多福山草原古写真展・巡回展を開催
- 助成実績
- 2007～2010年 瀬戸内オリーブ基金
  - 2011～2013年 兵庫県緑化推進協会
  - 2014年 民間助成団体(6団体)より助成
  - 2015年 民間助成団体(3団体)より助成

東お多福山草原保全・再生研究会事務局  
〒669-1546 兵庫県三田市弥生が丘6  
兵庫県立人と自然の博物館 気付  
橋本佳延  
Tel&Fax:079-559-2014  
e-mail:quercus@hitohaku.jp

このパンフレットの作成には、(公財)日野自動車グリーンファンドの助成金を用いられています。  
発行者：東お多福山草原保全・再生研究会  
発行日：平成23年12月31日 改訂：平成27年8月31日

# 東お多福山草原 保全・再生研究会



神戸市・芦屋市にまたがる東お多福山  
六甲山地で唯一の広大な草原  
多様な生物を育むススキ草原を再び

## 東お多福山の歴史とこれから

東お多福山草原は、かつてはキキョウ、スズサイコ、オミナエシ、ワレモコウ、オケラなどの草原生植物が多数生育するススキ草原でした。本草原は、肥料や飼料などを得るための刈り取りや森林管理のための除草などの人の営みや、山火事によって保たれていました。しかし、戦後の生活様式の変化によりススキ草原の価値が見いだされなくなり、草原と人との関わりは失われました。その結果、開発や植林、森林群落への遷移によって草原面積は82.9ha

(1948年)から9.2ha(2007年)にまで縮小しています。

また、優占種もススキからネザサに置き換わったために草原生植物の種数も個体数も激減してしまいました。

このように現在の東お多福山草原の生物多様性は危機的状態ですが、林道沿いなどに草原生植物がわずかに残っています。そこで、当会では植物豊かなススキ草原の再生を目指して、2007年秋より草原の一部区域でネザサの試験的な刈り取りを行っていま

す。2013年までの試験ではススキの植被や草原生植物の種数・植被が増加する傾向にあることがわかりました。

当会では、東お多福山草原を飼料やカヤの採集など生業中心の目的で利用するだけでなく、東お多福山草原が都市近郊にあることを生かし、レクリエーションの場や動植物について学ぶ環境学習の場として活用することを目指し保全活動をすすめています。



### こどもと自然とのふれあい



ワレモコウ



リンドウ



ノアザミ



ソリガネニンジン



すみれ



せんぶり



### 環境学習



### レクリエーション



しらヤマギク



オミナエシ



キキョウ



### 文化財への茅供給